

講談社

週刊現代 シリーズ「あの街角を覚えている」第3回

奈良 昭和22年～44年

令和4年(2022)6月4日号

シリーズ「あの街角を覚えている」第3回は奈良を紹介している

飛鳥時代、奈良時代と日本の中心を担った地には、古刹とともに生きた人びとの素朴さと活気があった。

入江泰吉の写真を中心に説明している。

◎町そのものが子供たちの学び舎だった

石舞台古墳（昭和26年）

かつては登ることができた

現在、石室に入れるが登れない

平城宮跡（昭和31年）

何もないから風あげができた

昭和28年遺構が見つかり、30年代

から史跡の保存と調査が本格化

法隆寺北界隈（昭和31年）

今と比べてみたい街角

大安寺界隈（昭和30年代前半）

旧村役場前ではにかむ

◎商売人気質がそこに根付いていた

興福寺（昭和30年頃）

街頭テレビが来るほど身近な存在

テレビが普及してなかった当時、誰

もが街頭テレビに熱中した。

餅飯殿町（昭和32年）

奈良市中心部にある商店街

昭和30年アーケード設置

奈良公園（昭和23年）

ヘレン・ケラーも鹿に餌をやった

大和郡山市（昭和35年）

金魚の養殖が盛ん（右上写真）

ならまち・東木辻町（昭和30年頃）

中心部に花街があった

遊郭として栄えたが昭和33年閉鎖



大和郡山市（昭和35年）

金魚の養殖が盛ん

稚魚を選別している様子。金魚養殖の歴史は約300年。

写真撮影：秦 峰一氏

（奈良県立図書情報館今昔写真WEB蔵）

◎映画、遊園地、競馬 さまざまな娯楽があった

三条通り（昭和31年）

中心部を東西に貫く目抜き通り

多くの映画館があった。

奈良ドリームランド（昭和35年）

ディズニーランドを模し昭和36年開園。平成18年に惜しまれつつ閉店

奈良競馬場（昭和22年）

平城宮跡近くにかつて存在した

三条通り（昭和30年）

太鼓台を担ぎ練り歩く春日大社遷座祭

吉野川（昭和33年）

夏の愉しみだった舟下り